

田ノ口小学校1年生「ダイコン交流」

田ノ口小学校では、学年ごとに、生活科や総合的な学習の時間、理科の授業を活用して、ナスやピーマン、オクラやニガウリ、ミニトマト、トウモロコシ、ダイコンやサツマイモ、ジャガイモなど、年間を通じた野菜づくりが行われています。

毎年、1年生の初めての担当野菜はダイコンです。地元農家で組織する食育推進グループ（代表・植田迪子^{あき}）の方々に協力を得ながら、校内プールそばの畑で種まきし、その後の間引きや草ひきなどの手入れ方法を学び、年明けには収穫したダイコンで、いっしょに漬物やダイコン料理づく



種まきの後、乾燥を防ぐためのモミ殻を敷き、水やりをしました。



私たちが作ったダイコンです。いっぱいといれました～。大豊作！



収穫したばかりのダイコン。寒いけど、頑張って洗うけん。

りで交流が行われます。

今年も1年生児童10人が食育推進グループのメンバーといっしょに9月に種まきしました。無農薬のダイコンは大切に育てられ、今年1月12日に迎えた収穫では100本を超える豊作となりました。

収穫日当日は時雨もちらつくとも寒い中となりましたが、子どもたちは一生懸命ダイコンを収穫、干し作業を行いました。

1年生と6年生と合同で行われた調理実習では、食育推進グループの指導に加えて、6年生が食材を包丁で切ってみせるなど、1年生に作業を丁寧に見える微笑ましい様子も見られました。

みんなが育てたダイコンは、葉を使った菜飯や風呂吹きダイコン、ダイコンサラダ、ダイコンたっぷりのお味噌汁にそれぞれ班ごとに調理されました。

1年生担任の秋田睦美^{ちづみ}先生は「こうして学校生活の中で食育学習ができるのも、地域の方が積極的に活動に関わってくれるおかげです。普通の授業ではできない経験や交流を子どもたちは楽しみながら学んでいます。今年も、家庭でもあまり食べることの少なくなった風呂吹きダイコンを作り、食することができ「苦かったけどおいしかった」「ダイコンの葉を調理できることを初めて知った。菜飯はおいしかった」と子どもたちの喜ぶ声がたくさん聞けました。この喜びを、学校だけでなく、時間のある休みの日だけでもいいので家庭の中でも味わってほしい」と話してくれました。

さむかった大こんひき



とくひろ つばさ

きょうは、大こんひきでした。

大こんをひいたとき、いっしょに手がかぶってひかかったです。ぼくは、いっしょに大こんがひやくてもてなかつたけど、がんばってりょう手で大こんをひきました。ひいているとだんだんなれてきました。

大こんは、かるいとおもったら、おもったよりすごいおもかったです。

大こんは、大きいの中くらいのと小さいのがありました。大こんは、ふたごのやつがあって、ぼくがひきました。大こんは三つ子もあってすごかったです。

大こんをひいていると、しょうくんが、「おとしあなに入った。」

といいました。はたけには、大こんをひいたあとのあながすごいです。ぼくも、すべったりしてひかかったです。

大こんは、すぐよごれていてあらうとき大へんでした。よごれていた大こんをあらいおけであらうたら、きれいになってすごひかっています。大こんをあらうたら、ズボンが水にぬれてひかかったです。

大こんをあらうのがすんだので、ほすことになりました。さいしよは、あき田せんせいがかみでくびって、「こうやってむすんで。」

といいました。

ぼくがむすんでいたら、「もうちょっとおもいっきりむすばなあ大こんがおちるで。」といいました。

さいしよは、むすぶのがなかなかできなかつたけど、だんだんなれてきました。

そして、むすんだら、うらにあって竹ざおにほしました。竹ざおに白い大こんがいっぱいになりました。

ぼくは、大こんのたねをまいてからこんなに大きくなっていたからびっくりしました。

大こんは、なんごあったかというのと、百十本ありました。ぼくは大こんのたねをうえて大こんをつくりたいです。大こんのりょうりもたべてみたいで。